



広報
なんたん



1月号

2007年 Vol.13

もくじ

- 2 佐々木市長・高橋議長 新年のごあいさつ
- 4 CATVは南丹市の未来を開きます
- 10 南丹市行政改革大綱策定
- 12 市民の皆さまの今年の抱負

「あけましておめでとうございます」



「合併一周年を迎え 南丹市の魅力づくりを」

南丹市長 佐々木 稔納

新年、明けましておめでと
うございます。

市民の皆さまには、ご家族
おそろいでお健やかに新春を
お迎えのことと、お喜び申し
上げます。

昨年は、南丹市誕生という
スタートの年にあたり、皆さ
まには格別のご理解とご協力
をいただき市政を進めること
ができました。心から感謝と
お礼を申し上げます。

さて、昨年を振り返ります
と、佛教大学との地域連携協
定書の締結、京都新光悦村や
八木町での企業進出、本年四
月に四年制大学として発足さ
れる京都医療科学大学の文部
科学省の認可など、新しいま
ちづくりが動き出しました。

また、新市建設計画をより
具体的に進めるための南丹市

総合振興計画の策定に向けた
議論を活発に行っていたい
ており、今般、まとまりまし
た南丹市行政改革大綱とも連
動させながら、より市政を発
展させようと決意を新たにし
ているところであります。

南丹市の将来を担う子ども
たちが健全に育ってくれる環
境づくりや、皆さまが将来を
通じて、安心して暮らしてい
ただけるまちづくりに向け、
諸施策を進めてまいりたく思
っております。

何よりも市民の皆さまに
「合併してよかった」と感じて
いただける南丹市にするため
には、地域資源に磨きをかけ
ながら、南丹市ならではの魅
力を生み出していかなければ
なりません。

幸い、私たちのまち、南丹



南丹市議会議員

高橋 芳治

「議員一丸となつて良き伝統の基礎づくりを」

市は、これまでの四つの町で大切に培われてきたさまざまな特性があります。さらに、南丹市の地域と人を結ぶ高度情報通信基盤整備事業や二十一年春の完成に向けたJR嵯峨野線の複線化工事が着々と進んでおり、南丹市が大きく飛躍する可能性をもっています。皆さまと手を携え、一体

感を持って誇りとさげすなを大切にしながら南丹市の創造に挑んでいきたいと思えますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、この一年の市民の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。ごあいさついたします。

新年あけましておめでとうございます。市民の皆さまには輝かしい新春をご家族おそろいでお迎えのこととお喜び申し上げます。

旧年中は、私ども市議会に對しまして、格別のご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございました。

さて昨年は、南丹市誕生という歴史的な年となりましたが、早いもので一カ年が経過いたしました。

この間、私どもは議会本来の機能発揮に努めながら、新市将来像の具現化に向けた基礎づくりを目指し、視点を新たに

まいりました。

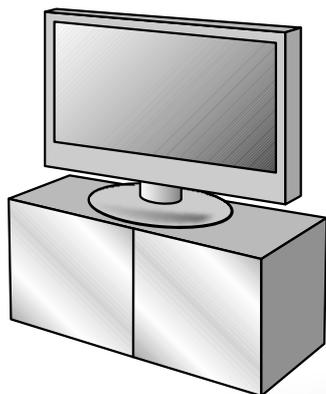
新市発足以来、市政は全般にわたり、内容の充実が着々と図られつつありますが、まだまだあらゆる面において、数多くの課題が山積しております。かかる状況を踏まえ、議会といたしましては、これまで各常任委員会ごとに、市内全域の視察を重ねて行い、教育施設や福祉施設の現状と環境問題、さらには市民の生活道路や旧町時代の継続事業の実態などにつきまして、その把握に努め、議論を深めているところであります。ところで新市の最重要課題は、旧町において幾多の先人

が知恵を出し、汗を流して築いてこられた地域の特性を尊重しつつ、これを最大限に生かしたまちづくりであります。

スタートしたばかりのわが議会にとっては、過去を振り返る歴史はありません。着実に一歩一歩の実績を積み重ねながら、良き伝統を築くための基礎づくりに、議員一丸となって邁進しているところでありますので、皆さま方のご理解とご支援を賜りたいと存じます。

市民の皆さまのご多幸とご健勝を心からご祈念申し上げます。新年のごあいさついたします。

は南丹市の未来を開きます



南丹市地域情報通信基盤整備事業により市内が光ケーブルで結ばれることで、緊急時において瞬時に情報を伝えたり、さまざまな情報をみんなで共有することができるようになります。また、何より地域と人が結ばれることにより、広い南丹市でテレビを通じて市民が一体化していくことができます。そして、そのことが地域コミュニティの活性化につながっていくのではないのでしょうか。

光ファイバーによる情報通

今年から本格的に市内に光ケーブルが張り巡らされ、地上デジタル放送やインターネットなど、高度な情報通信基盤が整備されることとなります。特にCATV(有線テレビ)の活用による自主放送番組の充実によって、人と街がより元気につながり、南丹市の新しい一歩を刻みます。

【未来の扉を開ける

CATV】

信網の整備は、都市部との情報格差の是正にとどまらず、南丹市の未来の扉を開ける大切なシステムです。

【鍵を握る自主放送番組】

市では、自主放送番組の制作も積極的に行っていきます。自主放送番組の中心は、市内のニュースです。これを通して市民の皆さまに、市で起きている出来事をお知らせします。また、ニュースの中でも随時特集を組んで、歴史や文化、日々の暮らしの様子などをお伝えしていきますので、南丹市の新たな一面を再発見していただけると期待しています。

一方、保育所や幼稚園、小・中学校の行事も放送されますので、家に居ながらにして子どもたちの様子を知ることができます。聞きたかった講演

会に行けなくても、ビデオに録画しておけば、空いている時間にいつでも見ていただけます。

ニュース番組以外にも、随時特別番組を制作していく予定です。その中には、南丹市の「ひと」や「自然」を取り上げた楽しい番組も放送していきます。すでに、旧園部町内では「9チャンネル」の愛称で親しまれている自主放送チャンネルで、こうした番組が放送されており、市民の皆さまに好評をいただいています。

【特別番組の活用を】

市では、さまざまな自主放送番組を通して、市民の皆さまの持つ特技・趣味、あまり知られていない南丹市の素晴らしい自然や風物などを放送していきます。まさに「百聞は一見に如かず」、きれいな映像と音声により文字では伝えられない情報を伝えていきます。満一歳の南丹市ですが、皆さまの新しいふるさと「南丹市」のよさを再発見してください。

「南丹市にこんな人がいるの!」、「こんな事ができる人が身近にいるんやね」そんなテレビを通じた思いから、新しい人と人とのつながりが生まれ、それが新しい絆となつて、新しい文化の輪につながっていくばと願っています。

大堰川の風景や名勝「るり溪」、「日吉ダム」や「かやぶき民家」、「菅生の原生林」をはじめ南丹市には、まだまだ知られざる自然がたくさんあります。

「市内にこんなきれいなところがあるの」、「身近なところにとくさんの自然が残っているね」と感じていただけるよう、市では番組を通して四季折々の豊かな自然、かけがえない風景を市民の皆さまに紹介していきます。

これら以外にも、市民参加の番組制作や企画にも市民の皆さま、積極的に参加してください。

【全国へ情報を発信】

全国へ向けての情報発信にも、ケーブルテレビは大きな



▲職員が手づくりの自主放送番組を制作

CATV

力を発揮します。現在、日本全国には多くのケーブルテレビ局が開局しており、必要に応じて衛星を使つての番組配信も可能になっています。南丹市の自然や風物の映像が、北海道や九州で流れているかと併せて、どんな情報発信をしています。

「9チャンネルを一度ご覧ください」

現在、園部町地域では各ご家庭で南丹市情報センターの番組をご覧いただけます。また、園部町地域以外では平成十九年四月から日吉町地域で、平成二十年四月から八木町と美山町地域で番組をご

覧いただくことができます。

それまでは、市役所各支所（日吉町地域では、南丹市日吉町生涯学習センター）に設置されているテレビで自主放送番組を見ることができません。ぜひ一度ご覧ください。

「番組制作に皆さまのご意見を」

自主放送番組の制作、充実には市民の皆さまのご協力が欠かせません。番組制作に直接ご参加いただいたり、情報をご提供いただくほか、放送した番組に対するご意見をお寄せください。

番組制作では、市民の皆さまが撮影されたビデオを放映することもできます。

最近のビデオ機器の性能なら簡単にきれいな映像や音声を収録できるようになっています。



▲CATVスタッフが地域的话题を取材

「投稿ビデオを募集します」

皆さまが撮影された地域のお祭りや催し、まちで見かけた素敵な風景など、番組内で放送させていただきます。（営利目的、宗教目的の作品は、放送できません）

ご応募される場合は、ビデオテープに、撮影時の簡単な紹介文を添えて送ってください。お待ちしております。

◆送付先・お問い合わせ

南丹市情報センター
 〒621-0004
 南丹市園部町小桜町六一一
 ☎(0777)631-777

まず全体をキープパスに

◀協定書を交わす佐々木市長と福原学長（右）



平成十六年二月に、旧美山町が佛教大学と交わした連携協定が、このほど、南丹市に拡大。新たに調印式が行われました。これにより、教育、福祉、産業などさまざまな場面で、地域住民とのふれあいを通じて若者が学び、まちづくりに参画する取り組みがスタートしました。

南丹市と佛教大学は十一月二十二日、まちづくりや教育、研究活動で相互協力する地域連携協定に調印しました。

佛教大学は、旧美山町と平成十六年二月に協定を交わし、社会学部を中心に、文・教育・社会福祉の全学部を挙げてフィールドワーク、演習、社会調査活動、伝統文化行事への協力をしようと、地域行事への参加やまちづくり講座などの開催などで、交流を続けてきました。今回の調印は昨年一月に南丹市が誕生したのを受けて、協定の範囲を南丹市に広げることになったものです。

調印式は、京都市北区の佛教大学で行われ、佐々木稔納市長と福原隆善学長が協定書

を交わしました。

旧美山町の時からまち全体を佛教大学のキャンパスととらえた活動で、まち全体を視野に入れた地域連携の取り組みは全国でも珍しく、今後、幅広い分野で、市民と研究者、学生の交流拡大を目指していきます。

美山でフォーラム

南丹市美山文化ホールで十一月二十六日、フォーラム「美山の魅力と可能性」が開かれました。これは、美山まちづくり委員会と佛教大学が連携して初めて開いたものです。農業マーケティング研究所の山本和子所長が基調講演を行い、「美山ブランドを生かして、



▲美山文化ホールで行われたフォーラム

ある程度の収入につながるような仕事をつくり出す努力が必要」と訴えました。

続いて佛教大学の野崎教授が進行を務め、四人のパネリストが話し合いをしました。

「美山の豊かな自然と食を生かして、産学公民の連携を」 「田舎の取り組みを都市の人知ってもらうことがまちおこしにつながる」といった提言が続いたほか、旅を通して環境問題を考えるエコツーリズムが提言されるなど、今後のまちづくりに生かそうと参加者は美山の魅力と可能性について探り合っていました。

「京都新光悦村」に企業進出



現地説明会であいさつする佐々木市長▼

▲山田知事、佐々木市長らが記者発表

昨年九月二十一日日から分譲が開始された「京都新光悦村」に、伝統産業と先端産業合わせて四社の申し込みがあり、さらに、伝統工芸分野などから立地表明がありました。十一月二十九日、京都府庁知事室で山田啓二知事と佐々木稔納市長らによる記者発表が行われました。

「京都新光悦村」は、京都縦貫自動車道の園部インター西側の丘陵地に計画している伝統産業と最先端産業の融合を目指す新しい産業の拠点として京都府などが、約四十億円かけて整備した団地です。

この「京都新光悦村」に進出する企業などが決まり、昨年の十一月二十九日、山田啓二京都府知事と南丹市の佐々木稔納市長らが記者発表を行いました。

木稔納市長らが記者発表を行いました。

進出する七社・機関のうち精密バネ製造のマルホ発條工業（京都市）と京象嵌製造の川人象嵌（京都市）、超精密研磨加工のクリスタル光学（大津市）、金属の精密機械加工の春日製作所（京都市）の四社はすでに立地が決定、今年の夏以降の操業を予定しています。



京都伝統工芸専門学校（園部町小山東町）、伝統工芸品などの販売を手がけるくろちく（京都市）、銘菓製造の井筒八ッ橋本舗（京都市）は進出を表明、今後京都府と詳細を詰めることになっています。「京都新光悦村」の分譲予定面



▲京都縦貫自動車道園部インター西側の丘陵地に計画している「京都新光悦村」

積は約九万平方メートルで、今回の進出により、約七割が埋まることになり、多くの従業員が南丹市に勤務されることになります。



今春 京都医療科学大学誕生

京都医療技術短期大学（南丹市園部町小山東町）が申請していた四年制大学への移行について十一月三十日、文部科学省より認可され、高橋隆学長に認可証が交付されました。これにより今年の春、南丹市内に「京都医療科学大学」が誕生することになりました。

京都医療技術短期大学は、島津製作所（京都市中京区）によって昭和二年に設立された国内初の診療放射線技師養成機関の「島津レントゲン技術講習所」が前身となっています。

その後、京都放射線技術専門学校、京都医療技術専門学校と名称を変え、昭和六十一年四月に、現在の地へ移転され、平成元年には三年制の短期大学に昇格。現在は学生二百四十人が学んでいます。

四年制化は、医療技術の高度多様化する医療現場のニ

ズに対応した品性を備えた人材を育成するのが狙いで、同短大では昨年四月に「大学設置準備室」を設置して、設置認可を申請。十一月三十日、文部科学省より認可されたものです。

新校舎は鉄筋五階建て、延べ約三千四百平方メートルで、図書館や研究室を完備。市では、大学との連携を強めることとしています。

「高度な技術者の養成に努め
地域との連携を深めたい」



京都医療技術短期大学
学長
高橋 隆
さん

本学は、昭和二年に創始者の島津源蔵氏が作られたものです。その当時から将来は大学へと発展させて、高度な技術者の養成という理念を持たれており、受け継がれてきました。

本年は創立80周年ということもあって、約3,700人の卒業生の非常に熱い思いがこうした形で実ったことに大変うれしく思っています。特にわが校の特徴として、入学生の出身の半数は近畿圏から、残りの半数は全国から集まっておりますので、卒業後は、診療放射線技師として全国の医療現場で活躍しています。

今後は地域との連携を深めるために、住民向けのパソコン講座の充実や大学の医療機器の見学会を行い、住民の皆さまの健康増進につながるような企画をしたいと思っています。

さらに南丹市や市内の他の学校との連携を深めたいと願っています。

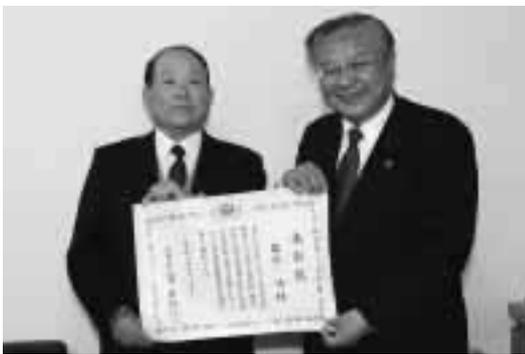




るり溪に天文台が完成

南丹市園部町大河内のるり溪に、天体観測施設「遊星館」が完成し十月二十四日、市や府、園部町振興公社の関係者らが出席して、オープニングセレモニーを行い完成を祝いました。この施設は旧園部町が青少年の育成や交流の場として計画していたもので、プラネタリウム棟と大口径の天体望遠鏡を備えたレンタルドーム四棟がフラワーガーデンの西側に完成しました。

プラネタリウム棟では、紀元前三万年から西暦三万年までの範囲で、指定した日の星空の映像が映し出せるほか、六等星までの恒星約六千個の投影ができる機能があります。



奥村

治さん

(園部町殿谷)

▲佐々木市長に受賞報告される奥村さん(左)

公平委員会制度五十五周年を記念して、南丹市園部町殿谷にお住まいの奥村治さんがこのほど総務大臣表彰を受賞され、佐々木市長に受賞報告をされました。

奥村さんは平成三年、旧園部町の公平委員会委員として就任され、南丹市発足の直前の平成十七年十二月三十一日まで務められました。

その間、民主的・能率的な行政運営と職員の人事行政の公平・公正な運営のために貢献されました。

総務大臣表彰受賞



井尻 喜美子さん

(担当地区…園部町全町)



原 次久さん

(担当地区…八木町栄町2丁目の一部、垣内、柴山)

民生児童委員に就任

民生児童委員の委嘱状伝達式が十二月六日、市長室で行われました。福祉に関することの相談や、関係行政機関と皆さまとのパイプ役としてお世話になります。(任期は十九年十一月三十日まで)



長生園創立五十周年を祝う

南丹市園部町上木崎町の高齢者福祉施設「長生園」の創立五十周年記念式典が十一月十五日、同園で行われました。

式典では、入所者の支援で貢献された個人や団体、勤続二十年以上の職員が表彰されたほか、関係者がこれまでの歩みを振り返るとともに、地域の高齢者福祉の一層の充実を誓いあいました。

次代を切り拓く^{ひら}市政運営の指針

南丹市行政改革大綱 策定

南丹市における行財政運営のあり方などを定めた「南丹市行政改革大綱」を、このたび策定し、昨年十二月二十日に公表しました。

この行政改革大綱により、どのような取り組みがされるのか、その概要をお伝えします。

○行政改革大綱とは

高度で多様化している市民ニーズに対して、行政の自己責任と自己決定による主体的なまちづくりが求められます。こういった時代背景の中で、合併時に策定された新市建設計画や、現在策定が進められている「総合振興計画」に基づくまちづくりを、効率的かつ効果的に実現するため、事業や制度、組織、業務運営をどのように改革するか、その方向性を定めたものが行政改革大綱です。

○行政改革はなぜ必要か

少子・高齢化社会、人口減少社会の到来をはじめ、地方分権の進展など、社会経済情勢が大きく変化の中で、将来にわたって自立的・持続的な発展を遂げるには、簡素で効率的な行財政運営の体制確立と、戦略的な「行政改革」

が必要となつていきます。

南丹市も、平成十八年一月、四町合併という大きな行政改革により誕生し、地域のバランスがとれた発展と住民福祉の向上を目指しました。

しかし、地方交付税を中心とした依存財源に頼る財政運営の中で、合併による格差是正事業や施設の老朽化に伴う大規模修繕事業、福祉サービスの多様化などにより歳出規模は増加傾向にあり、地方交付税の見通しが不透明な情勢では、財政状況は非常に厳しいと言わざるを得ません。

また、旧町それぞれにおいて、町民のニーズ実現のため、財源確保の厳しい中、地方債によるさまざまな事業に取り組み、地域の実態は大きく変化しましたが、一方で地方債の残高が、今では一般会計の歳出額を上回るものとなっております。

さらに、高度情報化社会の進展、市民ニーズの多様化、地方分権の推進と三位一体改革など、南丹市を取り巻く環境はますます厳しくなっており、行政の在り方そのものに対して、大きな転換が求めら



▲南丹市行政改革大綱

れているのです。

○どのように策定されたのか

最初に、職員による「行政改革推進プロジェクト」を結成し、今、何が問題となっているのか、どのように解決することが望ましいかなどについて検討しました。

この検討案を基に、住民の代表や学識経験者で構成する『南丹市行政改革推進委員会』に諮問し、委員会において、四カ月間にわたる審議を経て、「南丹市行政改革推進委員会答申」として提言いただきました。

この答申に基づいて、市長を本部長とする「行政改革推進本部」で策定したのがこの「行政改革大綱」です。



▲波多野行政改革推進委員会会長（左）から佐々木市長への答申

○大綱の概要

今回の大綱では、平成十九年度から平成二十三年度までの五カ年を一つの区切りとし、左記の二つの大きな改革目標を定め、これを実現するため基本事項として四つの改革に取り組むこととしています。

例えば、「**行財政運営を確**

立するための改革」では、公共施設の適切な維持管理の推進や評価制度などの導入による事業制度の見直し、徴収体制強化による自主財源の安定確保などにより、歳入と歳出のバランスがとれた適正な財政運営を目指します。

「**行政運営に市民が参加できるようにするための改革**」では、情報公開の充実や市民

■改革の目標

1. 『市民と共に築く市政運営』の実現

市民への説明などを通して、行政の透明性を向上させ、誇りと絆を大切に市民と行政が手を携え、輝き希望あふれる南丹市を築く市政運営の確立を図る。

2. 『次代を切り拓く行財政運営』の実現

長期的な視点にたち、見直すべきは見直し、改めるべきは改め、伸ばすべきは伸ばす「選択と集中」を行う中で、迅速かつ着実に実践する行財政運営の確立を図る。

■基本事項

①将来を見据えた行財政運営を確立するための改革

事業制度に関する改革、各種団体への対応に関する改革、財政運営に関する改革に取り組む。

②行政運営に市民が参加できるようにするための改革

情報公開に関する改革、広聴機能に関する改革、市民協働事業の推進に関する改革に取り組む。

③多様な市民ニーズに対し的確に対応できるようにするための改革

行政事務に関する改革、行政サービスに関する改革、職員人材育成に関する改革に取り組む。

④市としての新しい行政スタイルを確立するための改革

組織・機構に関する改革、職員定員管理・人件費に関する改革に取り組む。

と直接意見交換ができる環境の整備により、市民の皆さんと行政が協力して市政運営が行える「市民協働」の推進を図ります。

「**多様な市民ニーズに対して的確な対応をするための改革**」では、行政事務の整理合理化や電子市政などによる行政サービスの向上、そして職員人材育成の推進により、迅速で合理的な事務執行の実現を目指します。

そして「**新しい行政スタイルを確立するための改革**」では、本庁と支所の見直しや職員定数の削減などを行い、人件費の適正化に努めながら、柔軟で機動的な行政運営の確立を目指します。

○改革の実施に向けて

今年の三月末までに、この大綱を基にして、『南丹市行政改革実施計画』を策定します。

この計画では、細かな改革の内容や目標年度、中には具体的な数値目標などを定め、この実施計画に沿ってさまざまな改革を実施していきます。

また、常に「計画策定」「実施」「検証」「見直し」というサイクルを繰り返すことで、常に時代にあった、効果的な行財政運営を実現します。

併せて、改革内容と進捗よく状況を市民に公表するとともに、市民の代表からなる第三者機関に報告し、市民の意見や考えを市政に反映できる体制を整備します。

行政改革では、行政事務の改革だけでなく、市民の皆さまに接する部分や、深く関係する事業や制度についても見直しを行うこととなります。

これらの改革は、今をよくすることはもちろん、次の世代へ『輝き希望あふれる南丹市』を引き継ぐために実施するものでもあり、市民の皆さまの深いご理解とご協力があれば、決して成功するものではありませんので、よろしくお願いいたします。

行政改革に関する
お問い合わせ先

市役所 合併調整室

☎(0771)6810008

るり渓温泉の施設に勤務しながら、自然へのこだわりから、無農薬野菜を作っています。都会での生活が長かったので、るり溪のおいしい空気が澄んだ空は、最大の魅力です。今年、るり溪を市内全域の方々に地元の施設として親しんでもらえるように頑張りたいです。

豊かな自然がすぐそばにあることの贅沢さにそばはこころと意外と気づかないもの。その魅力を地元の方々にも一度気づいて欲しいと思えます。

『るり溪を
地元の施設として
親しんでほしい』

杉森 昌司さん

(園部町曾我谷)



『聞いてもらい
やすいテープづくり
に頑張ります』

朗読ボランティア
「かわせみ」

(園部町)

私たちは目の不自由な方に広報誌などを朗読し、テープにしてお配りしています。今年もまずは聞いてもらいやすいテープ作りに頑張りたいです。そしてできれば広報誌だけでなく詩や物語の朗読をしたり、歌を録音して聞かせてあげたり、ほかには施設への訪問も考えています。また昨年始めた子どもたちへの絵本の読み聞かせも続けていきたいです。人数が少ないのでもっと多くの方に参加いただき活動できたら嬉しいですね。



今年の抱負を語っていただきました

『徒然なるままに…』

画家
中野 修一さん

(日吉町四ツ谷)



年が変わっても、何も変わらない。近眼も、短足も。頭も悪いし、字も汚いし、相も変わらず、貧乏のままだし。

黙っていても何も変わらなない。だから行動しなければ、と思いつつ、仕事に追われる毎日が続く。何かが変わる気配さえ感じられない。

それでも私は、今年も静かに降る雪を眺めながら、そつとつがやくのだ。

「この世界が美しいから、みんなが気づきますように」

日吉町に移り住んで三年になります。

豊かな自然に囲まれ、地域の人たちに支えられて、地元の農産物を使いゆっくりと時間をかけて発酵させた天然酵母パンを焼いています。

パンを焼くことで少しずつ広がっていく人の輪を大切にしながら、地に足のついた仕事、そして安心して子育てができるよう、そんな地域づくりを目指す一人として、一歩一歩地道にがんばっていきたいと思います。

『人の輪を大切に
しながら地道に
がんばっていきたい』

パン工房「農」
水谷 千里さん

(日吉町胡麻)





今年には伝統ある羊かんなど
和菓子製造メーカーである
「虎屋」が八木町北広瀬地内で
工場を新築し、操業をいたし
ます。
南丹の地は、昔から都の菓
子づくりには不可欠な小豆の
生産地でありました。
工場の立地により小豆の増
産や地元雇用の拡大が図られ、
地域が潤い、工場も自然豊か
な南丹市に溶け込み、まちが
活性化することを期待いたし
ます。

『地場産業の育成と
地元雇用の拡大を』

宅間 敏雄さん

(八木町北広瀬)



『来てよかった、
住んでよかった
という市に』

松本 初美さん

(八木町木原)

南丹市発足から一年、わが
家も昨年は長男が結婚をして
同居を始めました。本当に良
い年でした。
今、私たちの所ではJR複
線化工事や地区内の河川工事
も始まりました。
旧八木町から引き継がれて
いる吉富駅周辺の土地区画整
理事業が今年本格的にスター
トの年になると聞いています。
若い人たちが南丹市に「来
て良かった、住んで良かった」
という市になればと願って
います。

地域の個性

つながり



市民の皆さまに

下吉田の味噌加工にかかわ
って十八年、今年七十代も半
ばの一人暮らしです。農閑期
は加工所に来なければ、みん
なと出会う機会がありません。
神経も使うし気も張りますが、
ぼんやりしていたら体がなま
ります。「今日も加工所へ…」
と思う気持ちが元気の素です。
一日仕事ができたといい喜び、
みんなと顔を合わせおしゃべ
りできたという喜び、それが
私の生き甲斐でもあります。
みんなで励まし合って美山の
特産品を守り育てたいです。

『お連れにして
もらうのがうれしくて』

山内 佳子さん

(美山町下吉田)



『高校生活の良い
スタートを切りたい』

仲江 啓太さん

(美山町三埜)



今年、三年間、たくさん
の事を学んできた美山中学校
を飛び立っていかなければな
りません。四月からは高校生
になり、また新しい生活がス
タートします。僕には進学し
たい高校があります。希望が
実現するよう、まずは受験勉
強に力を入れます。そして
高校では、勉強に力を注ぐ
のはもちろんのこと、たくさ
んの友達とともに楽しい生活
を送りたいです。
高校生活の良いスタートが
きれるようにしたいです。

南丹地区の小学生による駅伝競走大会と持久走が丹波自然運動公園陸上競技場を会場に行われ、駅伝競走の部に出場の58チームのうち、市内の小学校18校からは28チームが出場しました。

気持ちよく晴れた空の下、選手たちは仲間の名前を呼んで声援を送りながら、懸命にたすきをつないでゴールを目指しました。どの選手も最後まで全力で走り抜いた結果、駅伝競走の部で優勝に輝いたのは、園部小学校Aチームでした。

（11/25・「キッズふれあい駅伝」・京丹波町）

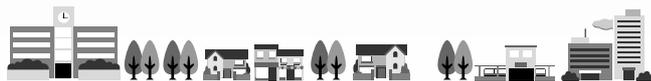
「全力でつなぐ一本のきずな」



▲第一走者が勢いよくスタートをきりました

みんなのひろば

まちの話題を 紹介します



身近な話題を広報係(0771)68-0003へお寄せください。



▲互いの学校について学びました

「統合に向けて児童の交流学習」

今年4月に統合する殿田小学校と五ヶ荘小学校では、友だちづくりや互いの学校の違いや良さを学ぶ機会として、昨年7月からさまざまな交流を重ねています。11月27日には、五ヶ荘小学校で4年生が国語の交流学习を行い、それぞれの学校の歴史や特徴などについて調べたことを発表し合い、理解を深めました。休憩時間には学校を案内したり、一緒に遊んだりしていました。

また、12月12日には両校の6年生23人が、交流事業の一環として市議会の一般質問を傍聴し、緊張の面持ちでメモを取りながら聞いていました。



▲真剣なまなざしで議会を傍聴

「人気の農産物即売農芸祭で地元交流」



◀立派なハボタンが並びます

（11/23・農芸高等学校「農芸祭」・園部町）

府立農芸高等学校の第24回農芸祭が「人と自然と農業と共に歩もう未来のために」をテーマに開催され、生徒が丁寧に栽培した農産物の即売や、模擬店、学科の展示・体験コーナーなどが催されました。

会場には、工夫を凝らした商品案内の看板やダイナミックな値段表が掲げられ、所狭しと並んだハボタンなどの園芸品、立派なカブやエビイモなどの野菜を求めて、訪れた方々は長い列をつくり、生徒と交流しながら大変なにぎわいを見せていました。

（11/27・12/12・殿田・五ヶ荘小交流学習・日吉町）



▲熱々のぜんざいを一緒に食べました

八木町地区の社会福祉協議会、福祉委員や民生児童委員らでつくる「ふれあいネットワーク」が、富本小学校の児童（4年生）と校区のお年寄りらが交流し、地域のつながりを深めようと「ふれあい餅つき集い」を開催しました。お年寄りにこつを教わりながら、地元で収穫した新米で児童がもちをつき、児童による音楽発表があった後、ぜんざいに入れて一緒に食べながら、和やかに交流しました。

（12／8・富本小学校「ふれあい餅つき集い」・八木町）

「児童とお年寄りがもちつき交流」

美山町自然文化村が地元地域と一体となって行う収穫感謝祭「美山楽農祭り」が開催され、地域の方を始め、観光客からも多彩な催しを楽しみました。

自然文化村で作っているリンゴとバラの枝を材料にしたリース作りや陶芸体験、地元野菜やおぼんざいの直売屋台、リンゴの皮むき競争や美山牛乳早飲み競争など、美山ならではの趣向を凝らしたイベントが行われました。また、福引大会も行われ、地元の方や家族連れで会場は活気に満ちていました。



▲手づくり体験もにぎわいました

（11／23・美山楽農祭り・美山町）

「美山で収穫感謝祭を楽しもう」

「帯地で作ったミニ振り袖を寄贈」



▲女性の館が美しく仕上がったミニ振り袖を寄贈されました

南丹市園部女性の館では、ものづくりの講座やサークル活動を活発にされており、古布や着物などをリフォームして洋服や小物を作る講座に人気があります。

この度、女性の館運営委員の役員が帯地で作られた華麗なミニ振り袖を市長室に寄贈されました。振り袖を掛けるための衣桁は、京都伝統工芸専門学校の学生に作っていただいたとのことで、縦33×横41×奥行25cmのケースに収められています。

（11／2・女性の館ミニ振り袖寄贈・園部町）

「企画展『電化製品がやってきた!』」

昨年10月21日から12月3日にかけて、市立文化博物館で南丹市発足記念の秋季企画展「電化製品がやってきた!」が開催されました。

昭和30年代を中心に普及してきた電化製品の発売当時のものや、それまで活躍してきた知恵の詰まった昔の道具なども比較して展示されました。

また11月18日・19日は「関西文化の日」として無料開放されました。昔懐かしい電化製品を見て「お父さんが子どもの頃は、こんなテレビやったんやで」と、お子さんに説明される家族連れの姿がありました。



▲家族で電化製品の移り変わりを眺めます

（11／19・文化博物館企画展・園部町）

なんたん歳時記

—12—



豊作祝う
「亥の子つき」
—園部町天引地区—

一年の豊作を祝う「亥の子つき」が、園部町天引地区と船岡東部地区で行われ、子どもたちが民家を訪ね、稲わらを束ねた「亥の子(別名「苞」)」と呼ばれる棒で地面をたたき、繁盛を祈ります。

亥の子つきは、旧暦十月の行事で、かつて西日本一帯で見られましたが、現在は口丹波でも珍しく、毎年十一月の第二の亥の日に天引地区と船岡東部地区で続いています。

当日は雨が降るあいにくの寒い天気でしたが、午後五時過ぎから二時間かけて天引区の子どもたち十八人は二つのグループに分かれ、区内の各民家の玄関で「亥の子の牡丹餅祝い」をします。この家繁盛するように、「と歌いながら亥の子を地面にたたきつけました。子どもたちの声に気づいた住民が「ご苦労さん」とねぎらうなど、地域の人の温かい言葉が行事を支えています。

祝 選挙啓発ポスター・標語で入賞

ポスターは二、三〇三作品、標語は一、二六一作品の中から審査



京都府選挙管理委員会と京都府明るい選挙推進協議会が主催する「平成18年度明るい選挙啓発ポスター、標語審査」が行われ、啓発ポスターの部において、南丹市立吉富小学校5年生の藤林チエさんの作品(上の写真)が入賞。また啓発標語において、南丹市立鶴ヶ岡小学校2年生の山崎綺香さんの作品「自分たちの 思いをとどける その一票」と南丹市在住の小林善恵さんの作品「投票日 輝く未来の 第一歩」が入賞しました。

編集後記

南丹市が一歳になりました。表紙に並んだ南丹市のお子さんたちと同様、南丹市も一歩、時には汗と涙を流して、少しずつ歩んできました。

支えられ、励まされながら、また一年成長していくこの南丹市を『広報』というアルバムでつづり、皆さまにお伝えしていきます。ご意見、ご感想などお寄せください。(A)

下村 和希 (かずき)ちゃん	近谷 まりな (あおい)ちゃん	林 吾生 (あおい)ちゃん	近本 優大 (ゆうだい)ちゃん	松村 侑奈 (ゆな)ちゃん	上田 明 (あかり)ちゃん	松本 夏音 (かのん)ちゃん
中野 翔悟 (しょうご)ちゃん	小財 紗季 (さき)ちゃん	吉田 翔太 (しょうた)ちゃん	堀江 未夢 (みゆ)ちゃん	谷口 大翔 (ひろと)ちゃん	片山 和樹 (かずき)ちゃん	吉田 悠太 (ゆうた)ちゃん
奥井 里空 (りく)ちゃん	宅間 彩音 (あやね)ちゃん	石山 陽那太 (ひなた)ちゃん	千種 夏成 (かんな)ちゃん	早崎 颯太 (そうた)ちゃん	永澤 一毅 (かずき)ちゃん	田中 杜 (そう)ちゃん
野口 香織 (かおり)ちゃん	後藤 幸来 (こうき)ちゃん	吉田 心々摩 (こころ)ちゃん	山田 愛桜 (まお)ちゃん	青木 玲愛 (れな)ちゃん	北井 愛美 (あみ)ちゃん	井尻 佳穂 (かほ)ちゃん
諫本 愛 (あい)ちゃん	森 睦美 (むつみ)ちゃん	竹内 優太郎 (ゆうたろう)ちゃん	渡辺 陸河 (りくが)ちゃん	森田 笑都 (えみと)ちゃん	坂野 綾香 (あやか)ちゃん	小林 宝良 (たから)ちゃん
井尻 唯斗 (ゆいと)ちゃん	清水 陽耀 (はるあき)ちゃん	西田 清倫 (きよみち)ちゃん	細見 優太 (ゆうた)ちゃん	藤田 杏花 (せうか)ちゃん	高橋 遼永 (りょうえい)ちゃん	松本 姫愛 (ひめい)ちゃん
表紙写真の紹介… 南丹市と同じ平成18年 生まれです！公募して おりました 写真をまとめて掲載 します。			松原 絆人 (はんと)ちゃん	山本 葉月 (はづき)ちゃん	河本 青 (はる)ちゃん	河本 環 (たまき)ちゃん
			西田 瑛結 (あむ)ちゃん	杉森 穂乃香 (ほのか)ちゃん	埴貝 姫南 (ひめな)ちゃん	

編集・発行：南丹市役所 総務部企画情報課

〒622-8651 京都府南丹市園部町小桜町47

TEL：0771-68-0003 FAX：0771-63-0653

URL：http://www.city.nantan.kyoto.jp

e-mail：kikaku@city.nantan.kyoto.jp

